

個別の指導計画作成手順例

図1に個別の指導計画の作成の手順例を示す。各学校で実態を考慮し、作成が効率的に行われる手順を工夫することが大切である。

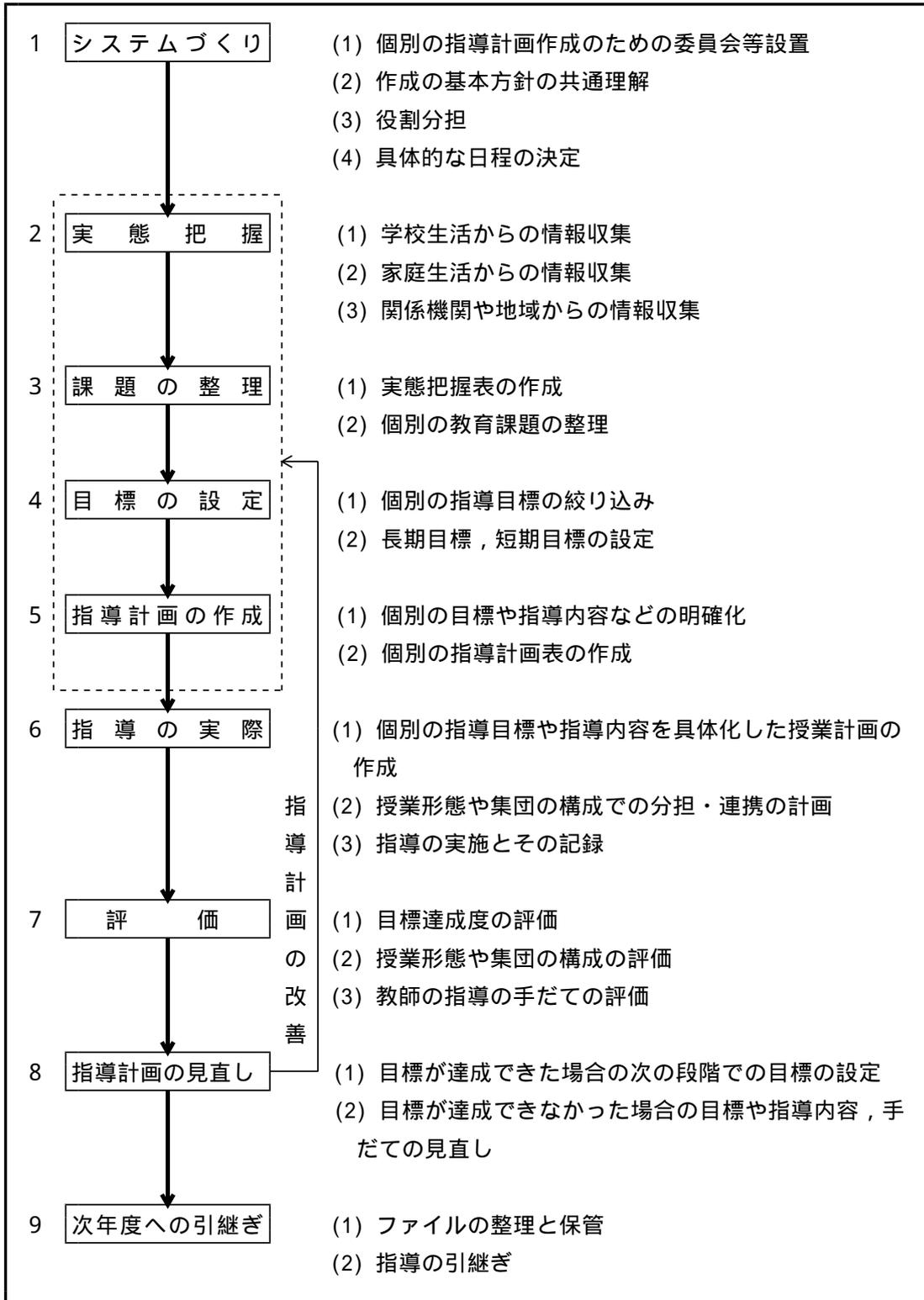


図1 個別の指導計画の作成手順例

個別の指導計画の作成上の留意点

1 システムづくり

一貫性をもった継続的な指導を行うための個別の指導計画を作成するには、児童生徒にかかわる複数の教職員で作成するシステムを確立することが重要である。

2 実態把握

必要な情報を効率よく収集・整理し実態把握に努める。収集項目については、表のようなものが考えられる。

評価する項目については、記入者の主観が入りやすいので複数の教職員による検討が必要になる。また、情報の多くは、個人情報であるので、人権尊重やプライバシー保護の観点から配慮する。

表 実態把握のための情報収集項目例

学習面	教科等の習得状況，学習習慣の形成，学習意欲，学習上の配慮事項など
生活面	基本的な生活習慣，日課や生活のリズム，興味・関心，人やものとのかかわり，社会性，進路，生活環境など
生育面	生育歴，教育歴，発達過程，養育上のエピソードなど
医学面	診断名，障害の状態・特性，身体状況，健康管理など
諸検査結果	知能検査，発達検査，社会生活能力検査など
その他	児童生徒の現在及び将来に関する保護者の願い，関係機関や地域からのニーズなど

3 課題の整理

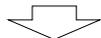
実態把握で得られた情報を基に児童生徒の課題を明確にする。その際、保護者や本人の願いも考慮する。課題は、障害に基づく種々の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるようなものを重点的に取り上げる。

4 目標の設定

目標の設定に当たっては、学級担任等が一人で指導目標の設定を行うのではなく、児童生徒にかかわる複数の教職員の考えを集約して設定していくことが大切である。

目標設定の際の手順例を図2に示す。

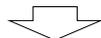
細やかな実態把握に基づいて、指導の形態ごとに具体化した個別の教育課題を設定する。



まとめた個別の教育課題に基づいて、個別の指導目標を設定する。

目標は将来の生活も見通し、現実に直結する具体的な課題の解決を目指して以下のような視点で設定する。

- ・ 興味・関心を生かし、得意な面を伸ばすようにする。
- ・ 学校生活や家庭生活の中での困難な状況を改善し、生活の充実につながるようにする。
- ・ 本人、保護者の願いを考慮し、かかわる複数の教職員の目で検討した実態に合うようにする。



目標は達成度を評価し、修正できるように、長期目標と短期目標に分け、関連付けて設定する。(実際の指導では、短期目標に基づいた段階的な具体的指導目標を設定する。)

- ・ 長期目標.....おおよそ1年間で達成できる段階の目標
- ・ 短期目標.....おおよそ学期内で達成できる段階の目標

図2 指導目標を設定する際の手順例

5 指導計画の作成

設定された指導目標と指導の形態を関連させて指導計画を作成する。

個別の指導計画は、基本的には、児童生徒の指導を効果的に行い、児童生徒の変容を効率的に促すためのものである。その意味では、本人や保護者の理解と協力は欠かせないものである。作成の段階で本人や保護者の希望や願いを的確に聴取するとともに、出来上がった指導計画について十分に説明し、共通理解を図る。

6 指導の実際

短期目標に基づき、各授業での具体的な個別の指導目標を設定する。指導内容は、短期目標の達成を図るために身に付けることが望まれる内容にはどのようなものがあるかという観点から決定する。

この場合、児童生徒が取り組みやすい内容を取り上げ、授業形態、指導方法、教材・教具などをできるだけ具体的に示す。特に、チーム・ティーチングの指導では、各教師の働き掛けの内容を明確にしておく。

7 評価

評価については、学習指導要領にも示されているように、「児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。」が大切である。

具体的目標や長期・短期目標の達成度について評価を行うのはもちろんのこと、授業の過程の評価を併せて行うようにする。特に、チーム・ティーチングの指導では、一人一人の教師の指導の手だてについての評価も必要になる。また、指導の結果は保護者に説明し、次の目標につなげていくように配慮する。

8 指導計画の見直し

目標が達成できなかった理由としては、目標が適切でない、指導の内容や方法、支援の仕方が適切でないなどが考えられる。個別の指導計画に指導の手だてや評価を記入する欄を作成すると、見直しが容易になる。指導計画の修正、変更などは適宜保護者と連携を図り、理解を得る。

9 次年度への引継ぎ

個別の指導計画や実態把握表、評価の記録などを含め一冊のファイルに整理し、指導を引き継ぐ際にも活用できるようにする。目標や指導内容などの修正についても指導の経過を把握する資料として確認できるように残しておく。ファイルは個人情報が入り込んでいるので保管には十分配慮する。

個別の指導計画をより一層充実していくことで、一人一人の児童生徒の豊かな自己実現を図ることができると考える。また、そのことが保護者をはじめ、かかわる人々の学校教育への信頼にもつながると考える。そのことを全職員で再確認し、積極的に個別の指導計画作成とその活用及び実施後の見直しに取り組むことが望まれる。